

広島県教員等資質向上指標の活用に向けて

広島県教育委員会

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の管理職及び教諭等には、資質・能力の向上を図るため、指標に照らして自己評価を行い、自らの課題等を明らかにした上で、意欲を持って職務に取り組むことが求められます。

このことは、何も教職員が完璧でなければいけないということではなく、時には失敗をしながらも一生懸命物事に取り組む姿勢が大切であるということです。

そして、幼児児童生徒も、そういった教職員の挑戦する姿勢に学び、自分たちも失敗を恐れず、挑戦してみたいと思うようになっていきます。

教職員が挑戦していくためには、何をどのように学び続け、挑戦していくのかについて、具体的に考えておくことが大切です。

ここでは、他の管理職や教職員の範となるべく、学校の長である校長の指標を活用した具体的な姿を一例として示しています。



《 校長の指標に基づく具体的な姿（例）の見方 》

指標に基づく実際の姿は多岐にわたりますが、ここでは、あくまで校長として土台となる姿のみを例示しています。この土台となる例を基本として、学校の実態に応じて各自で具体的な姿を設定し、取り組んでいくことが求められます。

なお、「○」は、広島県教員等資質向上指標（校長）に示す順に具体的な姿の例を挙げています。また、「◇」は、当該区分全体に関わって、必要と考える姿の例を示しています。

校長の指標に基づく具体的な姿（例）

「学校経営ビジョンの構築・実現」

○幼児児童生徒の生き生きと活動する姿や教職員の活躍する姿をイメージして、学校経営ビジョンを構築している。また、中長期的な視点で学校経営ビジョンを描いている。

○学校の取組を改善するため、集中的に取り組むことを3つに焦点化し、月ごと、学期ごとといった時間軸で短期目標を設定し振り返るとともに、教頭、事務長等と共有している。

○学校経営ビジョンを保護者、地域と共有するため、保護者、地域と繰り返し対話を行っている。

◇幼児児童生徒の実態を踏まえ、不登校や生徒指導上の諸課題等を校長自身が自分事として捉えたり、合理的配慮を常に心掛けたりしている。また、子供たちの「居場所」となる、安心できる環境をつくっている。

「カリキュラム・マネジメント」

○教科等横断的な視点を持ち、全教職員の授業を一単位時間観察した記録を基に、各教職員を生かした教育内容の編成・実践・改善を図っている。

○教育活動の質の向上を図るため、授業観察記録などの事実に基づいて協議するなど、「深い学び」を実現するための校内研修を実施している。

○人的・物的資源の活用のために、地域等の外部の資源を掘り起こし、それらを教育内容に効果的に組み入れる方策を見いだしている。

「人材育成」

○校長自ら、失敗を恐れず果敢に挑戦し続ける姿や、教職員と協働する姿を教職員に示している。
○教職員の意欲や資質・能力の向上を図るため、全教職員の授業を一単位時間観察した後に、コーチングの手法（話を聴く、認める、質問するなどして教職員が自ら答えを創り出す方法）を使った面談を実施している。

○教職員の学び続ける意欲を高めるため、教職員個々の職能成長につながる研修への参加を促したり、日々のコミュニケーションを通して、意図的・継続的なOJTを実施したりしている。

◇ジョブローテーションや経験に寄らない主任配置等、個々の職能成長を図るための人事配置を行っている。

「組織・環境づくり」

○適切な校務分掌の仕組みを作るため、複数の分掌にまたがる業務を見える化する等して、改善を図っている。

○一人一人の持っている力を引き出すため、全教職員と日頃からコミュニケーションを図ったり、親身になって相談に応じたりしている。その際、時には言いづらいことも言い、嫌われることを恐れず向き合っている。

○学校における働き方改革の推進のため、校内研修を実施するとともに、学校・教職員の業務を整理し、劣後順位をつける等、具体的な取組を企画・実施している。

「保護者・地域・関係機関等との協働」

○保護者や地域、関係機関等との深い信頼関係を築くため、相互に情報交換等を行うつなぎ役として行動している。

○学校経営目標を共有し、目標達成に向け協働するために、保護者や地域、関係機関等と具体的な手立てを検討できる場を設けている。

○日頃から他校の校長と相談し合える関係を築くとともに、近隣の異校種の校長とも地域との協働に関わる連携を密にしている。

「危機管理」

○教職員の服務管理を適切に行うため、不祥事防止に向けた校内研修の進め方として、行為別及び原因別で考えさせ、他人事ではなく自分事として捉えさせる工夫をしている。

○学校安全に関する教育を推進するため、学校内にとどまらず、保護者や地域等の協力を仰ぎ、工夫のある取組を行っている。

○幼児児童生徒が安全・安心に学習活動や施設利用ができるよう、学校におけるあらゆる危機を未然に防止するための取組を推進するため、あらかじめ未然防止の取組を評価する項目を作成し、改善につなげている。



他の職においても、ここに示す校長の具体的な姿（例）を参考とし、自身の状況に応じて指標から導き出した具体的な姿を念頭におき、具体的に資質・能力の向上が図れるよう指標を活用してください。